**校長　東野　裕治**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| **子どもたちとともに「こころ」と「からだ」を育む学校**  １．支援教育の専門性や指導技術の向上をめざすことで、児童・生徒を一人ひとり大事にし、“生きる力”をしっかりと伸ばす学校  ２．児童・生徒が共生社会へ出て、自立的にたくましく生きていくため、保護者、関係諸機関と連携し、支援ネットワークが構築できる学校  ３．児童・生徒が安全安心に通い、楽しく過ごせる学校 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　支援教育における専門性及び指導技術の向上    (１)　シラバスの整備や指導計画等の様式の統一などを通じ、小・中・高３学部を見通した教育課程の改善を行う  (２)　教材、教具の充実及び共有化、アーカイブ化を推進し、授業の質の向上及び質の平準化を図る。  (３)　ＩＣＴ機器の活用をさらに高める。特にプロジェクターや書画カメラ、電子黒板化ユニットなどを使った新しい授業スタイルを構築する。  (４)　リーディングスタッフやコーディネーター等による校内支援や新たな研修等により、経験の少ない教員の専門性や指導技術の向上を図る。  ２　キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現  (１)　キャリア教育のさらなる推進。特に小・中学部における教育の意識改革や所属教員が高等部卒業後の進路環境を知ることによる、教育課程への効果的なフィードバックを図る。  (２)　児童生徒の居住地にある学校との交流及び共同学習（居住地校交流）や学校間交流をさらに進める。  (３)　ボッチャをはじめ、パラスポーツを授業等に取り入れたり、地域へのかかわりを深める活動を推進したりすることで、ボランティアや余暇活動、健康維持につながる取組みを推進する。  ３　安全安心で活力あふれる組織及び学校作り  (１)　中河内支援教育研究会での役割分担や活動を活性化させ、地域の支援教育力の向上に寄与する。  (２)　ヒヤリハットの共有、緊急対応体制のさらなる定着を図り、教員間の情報の共有と連携のもと、個々の教職員が常に児童生徒の安全・安心をしっかり守る体制を構築する。  (３)　校務分掌や業務分担の見直し等で、業務の効率化を図り、児童生徒への直接的なかかわりの時間を増やす。  (４)　教職員が健康にそれぞれの職務を遂行し、児童生徒・教職員ともに快適な職場の環境を構築する。また、会議等の効率化について検討する |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成　　年　　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　**支援教育における専門性及び指導技術の向上** | (１)　シラバスの整備や指導計画等の様式の統一などを通じ、小・中・高３学部を見通した教育課程の改善を行う  (２)　教材、教具の充実及び共有化、アーカイブ化を推進し、授業の質の向上及び質の平準化を図る。  (３)　ＩＣＴ機器の活用をさらに高める。特にプロジェクターや書画カメラ、電子黒板化ユニットなどを使った新しい授業スタイルを構築する  (４)　ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞｽﾀｯﾌやｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ等による校内支援や新たな研修等により、経験の少ない教員の専門性や指導技術の向上を図る。 | (１)昨年作成した八尾支援のシラバスの雛形を全教科で使用。また、各学部ではなく全校的な教育課程(12年間を見通す)の検討を進める。  (２)ア．優れた授業を映像に残し、研修や授業改善等に活用するため準備を開始する。  イ．教材、教具を充実し、教材や指導案等が共有しやすいように電子化に取り組んでいく。  (３)昨年度図書室に設置したプロジェクターや書画カメラ等のユニットを授業で活用できるよう活用研修を推進する。  (４) ア．ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞｽﾀｯﾌやｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ等を中心に本校教員に対し指導についての相談会等を定期的に実施する。  イ．外部講師などを活用し、全教職員がさらなる基礎的な指導技術や専門知識を習得する。 | (１)ア・シラバスの新様式を、全学部で使用し、シラバスのＨＰ掲載や「学習のまとめ」など統一出来る様式の検討を行う。  イ・全校教育課程検討会を年3回以上実施。  (２)ア．ｱｰｶｲﾌﾞ化する授業の選定を進め、年度末までに授業の録画を試行実施する。  イ．教職員向け学校自己診断に「教材、教具の活用について」の項目を新設し、肯定的評価が70％以上。  (３)ア．授業活用のためのデモンストレーション研修を実施する。  イ・教職員向け学校自己診断の「ICT機器の活用」項目の肯定的評価が10％増  【H30 75％】  (４) ア．本校教員に対する定期的な相談会を年１５回以上実施する。  イ．夏季休業中に、連続したテーマに沿った研修を計画し実行する。 |  |
| ２　**キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの**  **充実による自立や社会参加の実現** | (１)　キャリア教育のさらなる推進。特に小・中学部における教育の意識改革や所属教員が高等部卒業後の進路環境を知ることによる、教育課程への効果的なフィードバックを図る。  (２)　児童生徒の居住地にある学校との交流及び共同学習（居住地校交流）や学校間交流をさらに進める。  (３)　ボッチャをはじめ、パラスポーツを授業等に取り入れたり、地域へのかかわりを深める活動を推進することで、ボランティアや余暇活動、健康維持につながる取組みを推進する。 | (１)ア．小・中学部の教員による施設事業所見学を計画的に行い、校内研修についても検討していく。  イ．小中高連携による一貫した進路指導のために、キャリア教育について全校的なカリキュラムの構築に取り組む。  (２) ア．居住地校交流の啓発や交流が、本校の教育活動とより密接に結びつくよう実践を進める。  イ．児童・生徒会による交流活動の活性化と充実を図る  (３)ア．児童・生徒会主導による地域に向けた挨拶や啓発活動、および清掃活動等に取り組む。  イ．パラスポーツやニュースポーツを授業やクラブに取り入れ、大会等への参加などにも取り組む。 | (１)ア．昨年に引き続き、小・中学部教員の三分の一が事業所見学を実施する。  イ．小中高の学部間連携を意識した、将来につながる実践的（作業学習や販売学習など）な学習を試行する。  (２) ア．交流から「共同学習」へ一歩進めるための検討を開始し、年度内に方向性を定める。  イ．より充実した交流活動を具体化するための検討をし、年度内に方向性を示す。  (３)ア．地域に向けた取り組みを各学部１つ以上企画立案し実施する。  イ．パラスポーツやニュースポーツを新たに授業やクラブなどに２競技以上取り入れ実践する。 |  |
| ３　**安全安心で活力あふれる組織及び学校作り** | (１)　中河内支援教育研究会での役割分担や活動を活性化させ、地域の支援教育力の向上に寄与する。  (２)　ヒヤリハットの共有、緊急対応体制のさらなる定着を図り、教員間の情報の共有と連携のもと、個々の教職員が常に児童生徒の安全・安心をしっかり守る体制を構築する。  (３)　校務分掌や業務分担の見直し等で、業務の効率化を図り、児童生徒への直接的なかかわりの時間を増やす。  (４)　教職員が健康にそれぞれの職務を遂行し、児童生徒・教職員ともに快適な職場の環境を構築する。また、会議等の効率化について検討する。 | (１)ア．昨年以上に積極的に研究会に参加し、地域の仕組みの中で、運営や活動に携わる。  イ．地域の教職員をも対象とした研修や来校相談をさらに充実させる。  (２)ア．新たなヒヤリハットの共有のシステムを構築する。  イ．実証型避難訓練のさらなる継続実施と訓練の見学を含む保護者と連携した取組みを検討する。  (３)今年度より、生活安全部を２つの分掌に分けて運営し、年度中に総括し改善する。  また、次年度に向けて分掌や委員会の整理を検討していく。  (４)ア．定時退庁日の奨励や長期休業中の時間外勤務の縮減に昨年以上に取り組む。  イ．会議の効率化や削減に取り組む。 | (１)ア．中河内支援教育研究会での定期研究会への出席及び情報提供を行う。  イ．来校相談の環境を整え、年１５回以上実施する。  (２) ア．新たなヒヤリハットの仕組みを２学期までに試行実施する。  イ．保護者向け学校自己診断の「災害に備えた取組み・・」の肯定的評価の昨年度  【H30 80％】よりアップさせる。  (３)夏季休業中に、次年度の体制について検討会議を実施。教職員向け学校自己診断の「分掌、学部それぞれの連携が図られている」項目の肯定的評価を５％増【H30 72％】  (４)ア．週１回の定時退庁日（午後７時までに退庁）の完全実施  イ．会議におけるルールを新たに2つ以上実施する。 |  |